

農林水産大臣賞に青森県・(有)金子ファーム 様

枝肉単価 30,348 円で (株)丸富商店 が落札

令和3年度全国肉用牛枝肉共励会が、10月26日から10月29日までの4日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ30都道府県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛71頭、第二部 和牛去勢牛271頭、第三部和牛牝牛158頭の合計500頭で開催されました。名誉賞に輝いた和牛去勢牛の78号は、青森県から出品された(有)金子ファーム様の出品牛で、父が「福之姫」、母の父が「安福久」で、月齢33ヶ月、生体重840kg、枝肉重量585kg、歩留69.6%、格付A5（BMSNo.12）、ロース芯の面積が111cm²、バラの厚み10.8cm、皮下脂肪の厚さ1.3cmで、全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、モモのサシ抜けが良好で、ロース芯が充実し、肉色・光沢に優れた無駄のない正肉歩留まりの良い、名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は過去最高の30,348円で(株)丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた(有)金子ファーム様は農林水産大臣賞、東京都知事賞をはじめ、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また各部の最優秀賞は、第一部栃木県・(農)栃木市鍋山牧場様の25号牛を枝肉単価2,503円で(株)東和食品が、第二部島根県・(株)松永牧場様の302号牛を枝肉単価3,633円で(株)中村畜産が、第三部鳥取県・(株)田村畜産様の620号牛を12,008円で(株)吉澤畜産により購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第1部乳用・交雑去勢	71	964	1171	795	627	765	525	65.0	70.1	60.4	1,460	2,503	913
第2部和牛去勢	271	850	1070	723	583	726	484	68.5	73.5	61.6	2,708	30,348	1,757
第3部和牛牝	158	721	904	559	483	622	352	67.1	72.1	61.7	2,862	12,008	2,102

本共励会の出品規則第6条「出品牛の資格」により、和牛去勢の部28頭、和牛牝の部で17頭の合計45頭が審査対象外となり、審査の対象となったのは455頭でありました。

牛肉営業部

<10月の相場動向>

新型コロナウイルス感染拡大により、19都道府県での緊急事態宣言および8県でのまん延防止等重点措置が、9月30日で解除され牛肉需要の回復が期待されたが、月半ばまでは様子見の展開が続いた。和牛については輸出と冷凍保管事業による価格の下支え傾向が継続し、交雑については量販店・小売りの需要が今一つという状況で、下旬はやや弱含みの展開となった。

和牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,718円	+53円	102.0%	+35円	101.3%
A4	2,339円	-13円	99.4%	+25円	101.1%
A3	2,143円	-14円	99.4%	+75円	103.6%
A2	1,816円	-166円	91.6%	+26円	101.5%

交雑去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,709円	+123円	107.8%	-10円	99.4%
B3	1,464円	+29円	102.0%	-51円	96.6%
B2	1,266円	-7円	99.5%	-72円	94.6%

乳牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	1,070円	-	-	-	-
B2	1,023円	207円	125.4%	-1円	99.9%

<11月の牛肉輸入量予測>

輸入牛肉通関量		9月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,015	7,178	139.5%
	米国	11,630	9,408	123.6%
	その他	2,750	1,718	160.1%
	合計	24,395	18,304	133.3%
フローズン	豪州	9,521	11,507	82.7%
	米国	8,744	10,949	79.9%
	その他	7,923	3,504	226.1%
	合計	26,188	25,960	100.9%

出典：食肉速報

財務省が発表した輸入通関実績によると、9月の輸入量は前年同月比14.3%増の5万583tで、うちチルドは33.3%増の2万4,395tと大きく上回った。フローズンは、前年同月比0.9%増の2万6,188tとなった。

農畜産業振興機構によると10月の牛肉輸入数量は前年同月比0.9%減の5万500t(チルド3.5%増・冷凍3.9%減)で、11月は3.5%減の4万7,700t(チルド7.8%減・冷凍前年並み)と予測している。11月は、チルドは豪州・米国共に現地価格高騰から前年同月を下回り、冷凍は他国産で補う動きがあることから前年並みと予測している。

<11月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による11月の出荷予測頭数は、全体で前年比99.8%の10万4,800頭で、品種別にみると和牛は3.9%減の5万1,300頭、交雑種は6.2%増の2万3,300頭、乳用種は0.2%減の2万8,400頭と予測している。

東京食肉市場の11月のと畜頭数は9,030頭を予定しています。

<11月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が全都道府県で解除されたことにより、外食を中心とした需要の活性化が期待されるものの、インバウンド需要が消滅しているため、コロナ前の状況には程遠い。

デフレ傾向による需要の畜種シフトなどもあり、牛肉の需要を取り巻く環境は厳しい。中旬までは和牛については冷凍保管事業や輸出需要などで、交雑種や乳用種については輸入牛肉の価格が高いことなどから、一定の価格を維持する保合いの展開が見込まれる。その後、下旬以降は年末需要を見込んだ手当買いにより、相場の上昇が予想される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,600~2,700	B4	1,700~1,800
A4	2,400~2,500	B3	1,550~1,650
A3	2,200~2,300	B2	1,400~1,500
A2	2,000~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

豚肉営業部

9月の全国と畜頭数は、前年同月比3.1%増の138万9,424頭。また、9月の豚肉通関数量は7万4,295t(前年同月比13.5%増)と前年同月を上回ったが前月比では5.0%の減少。内訳はチルドが3万54,66t(8.8%増)、フローズンは3万8,829t(18.1%増)となった。

<10月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	64,600	578	547	880
4日	62,800	566	542	821
5日	65,900	549	524	977
6日	65,500	566	522	727
7日	66,700	538	506	814
8日	61,500	531	495	923
11日	59,800	523	483	727
平均	63,829/日			838/日

全国的に気温が高く残暑が続く中、例年より早く強まった鍋物需要は落ち着いた展開となった。一方で緊急事態宣言が解除されたことにより、外食関係の動きも少し見られた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	70,500	512	485	955
13日	65,300	507	477	755
14日	65,700	525	485	666
15日	64,100	504	481	1,066
18日	64,900	509	480	656
19日	66,700	511	484	822
20日	64,300	515	484	645
平均	65,929/日			795/日

10月半ばになってようやく秋らしい気温となり始めた。12日に全国と畜頭数は7万頭を超えたが、その後は6万頭台で推移した。上物相場は500円台で維持しているが、上中の価格差が開く軟調な展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	65,700	521	498	662
22日	65,800	508	497	915
25日	68,000	523	506	665
26日	66,900	526	519	882
27日	69,300	545	527	669
28日	66,800	526	509	820
29日	68,800	517	495	924
平均	67,329/日			791/日

全国と畜頭数は少しずつ増えてきているが、7万頭には届かない状況が続いた。月初めに向けた手当もあり相場は強もちあい推移し、上中の価格差も少ない展開となった。

<11月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による11月の肉豚出荷予測では144万7,000頭(前年比99.6%)と予測している。当市場の11月集荷予定頭数は1万9,500頭、1日あたりでは約886頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万4,100t(同105.1%)、内訳は冷蔵輸入量が3万4,700t(同90.1%)、冷凍輸入量は3万9,400t(同123.3%)と予測。

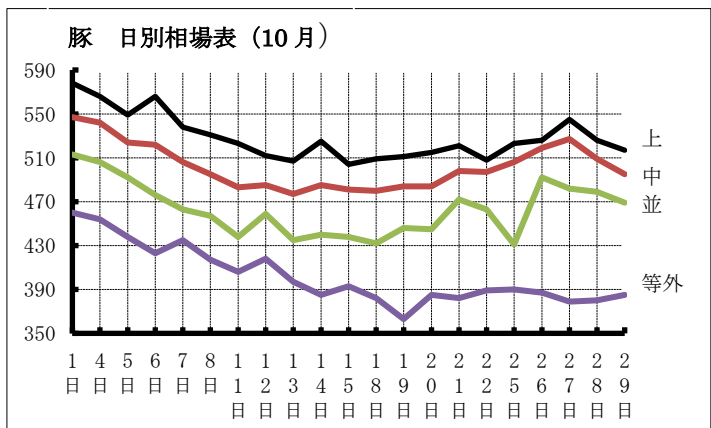
冷蔵品輸入量は北米における現地価格の高騰の影響等から、かなりの程度下回ると予測する。また3ヵ月平均は前年同期をわずかに下回ると予測する。

冷凍品輸入量は中国の買い付けが弱まったことにより、価格が下がった欧州産の輸入量が増えていること等から大幅に前年同月を上回ると予測する。同じく3ヵ月平均も、前年同期を大幅に上回ると予測する。

11月は祝日があるものの連休とはならないため、大きな盛り上がりには期待できないが、今後の冷え込みに伴い鍋物需要が本格化され、末端の荷動きによっては底堅く推移することが予想される。

出荷頭数は徐々に回復に向かうが、一部地域では呼吸器系の疾病により例年のような急激な増加にはならない可能性もある。

以上のことから当市場の上物平均価格は470円前後、中物平均価格440円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127